

【八重瀬町教育委員会】
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続ける「生きる力」が求められている。また、現代社会におけるデジタル化、オンライン化が大きく進展しているなか、これからの学校は、ICTを最大限活用することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが求められている。

本町では、これまで取り組んできた「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより推し進めることで「生涯にわたって自ら学びを進めていくことができる児童生徒の育成」をめざしている。

個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒を誰ひとり取り残さない納得するやり方で進めていく。

また一人で学ぶには時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、まわりとの対話やクラウド上でみんなの考えを参照し、感化されるといったことが想定される。

本町では、これまで以上に1人1台端末やクラウド環境下での個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍において、休校時の中オンライン授業への取り組みや持ち帰りを通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。また、Google WorkspaceなどクラウドツールやClassroom、ドライブを利用した校内での資料の共有や情報共有する仕組みも一定程度定着したほか、他校との交流事業におけるMeetやZoomといったビデオ会議ツールの利活用も広がっている。

また、Formsを通じた欠席連絡やアンケート集計といった利活用も定着しており、コロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

一方で、学校間の利活用の差や学年間での利活用の差、学級間でも利活用の差が出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、1人1台端末を活用した実践が不可欠であることを理解したうえで、校内でのミニ研修等の充実や校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広がっていくことが必要とされている。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の学習者用端末の整備および更新は、単なるICT機器の刷新にとどまらず、教育活動の本質的な転換を図るための極めて重要な契機である。本町が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実、並びに新たな授業観の確立に向けては、端末の利活用自体を目的化するのではなく、児童生徒の学びを豊かにするための強力な手段として位置づけることが不可欠である。このため、教師の指導力向上と外部との組織的な連携を強化する「指導体制・研修の充実」を図るとともに、自律的かつ安全にツールを使いこなす土台となる「情報モラルの向上」を車の両輪として、以下の通り具体的な利活用方策を推進する。

(1) 教師のクラウド活用促進と外部連携による指導体制・研修の充実

今回の端末整備および更新を契機として、教師の授業設計や教材研究における利活用を強力に促進し、クラウド活用の体験を十分に蓄積させることで、授業内にとどまらず授業外での活用も含めた実践の幅を広げていく。新しい授業観の確立に向けては、国や県の最

新の動向を踏まえた理論的な研修の充実を図り、端末の利活用自体を目的にするのではなく、児童生徒の学びを豊かにするための手段であるという本質的な利活用に向けて理解を深める。

さらに、県内外の先進地域への視察を計画的に実施して知見を深める一方、本町自身が「リーディングDXスクール（生成AI）指定校」として選定された2校、および「協力校」4校の全町体制を有している強みを活かし、自らの先進的な実践や研究成果を県内外の視察校等へ積極的に発信・共有していく。

（2）情報モラルの向上と安全な利用環境の構築

1人1台端末の利活用を健全かつ効果的に推進するため、児童生徒の情報モラルの向上および安全な利用環境の構築に注力する。情報社会における権利の尊重や義務・責任の理解、情報セキュリティの重要性について体系的に学ぶ「デジタル・シチズンシップ教育」を、教育課程全体を通じて計画的に推進する。

インターネット上の誹謗中傷、プライバシー侵害、ネット依存傾向などのリスクから児童生徒を守るため、各学校での実態に応じた適切なルールづくりや、家庭・地域と連携した啓発活動を強化する。これにより、端末やクラウドという強力なツールを、児童生徒が自律的かつ安全に使いこなすスキルの育成を一体的に図る。